

## 中小企業向け事業保険のエヌエヌ生命 『事業承継に関する調査』の調査結果を発表

生命保険を通じて日本の中小企業を応援するエヌエヌ生命保険株式会社(代表取締役社長:フランク・エイシンク、本社:東京都千代田区、以下「エヌエヌ生命」)は、後継者として事業承継を経験した全国の中小企業経営者(代表取締役(社長))600人を対象に行った『事業承継に関する調査』の調査結果を発表いたします。

エヌエヌ生命では事業承継に関する調査を継続的に実施し、調査結果を踏まえ、より一層中小企業経営者のニーズに合ったサービスの拡充を図ってまいります。

### <調査結果トピックス>

- 1. 事業承継のタイミングについて「適切だった」のは約半数。8人に1人は「遅かった」と考えており、40代以前の承継が望ましかったと回答(本調査 Q1、Q2 参照)**

事業承継を経験した後継者の52.5%は、承継タイミングについて「適切」と回答しました。一方、「遅かった」(「遅かった」と「非常に遅かった」の合計)と回答した後継者は13.6%で、うち82.9%は40代よりも下の年代で事業承継することが適切と回答しました。
- 2. 家業を継ぐにあたり、3人に1人は承継を躊躇したと回答し、躊躇させた要因は「資金面での不安」が最多(本調査 Q6、Q7 参照)**

事業承継について「非常に躊躇した」または「躊躇した」と回答した割合は33.9%で、承継を躊躇した要因として最も多かったことは「資金面での不安」(28.6%)でした。
- 3. 最終的に事業を継ぐ決め手となったのは関係者に対する責任感(本調査 Q9 参照)**

最終的に事業を継ぐ決め手となった要因は「親・先代から譲り受けたという責任」が最も多く(48.3%)、次に「従業員に対する責任」(32.5%)となり、関係者に対する「責任」が承継を決める要因の大多数を占めました。
- 4. 今後の挑戦・注力したい領域について、「従来からの事業(家業)」への注力と「新業態への挑戦」とでスタンスが分かれたが、現在の中核事業から派生させた新しい商品やサービス展開への意欲は総じて高い(本調査 Q10、Q11 参照)**

今後挑戦・注力したい領域については「従来からの事業(家業)に絞って続ける」が38.7%で最多となる一方、「新業態への挑戦」も29.0%と二番目に大きい割合を占めました(本調査 Q11 参照)。また現在の中核事業から派生させた新しい商品やサービス展開への意欲は約76%と高い割合となりました。

### <調査概要>

調査時期:2018年10月

調査方法:インターネット調査

調査地域:全国

調査対象者:20代から60代の、従業員(5人以上300人未満)を雇用する企業の代表取締役社長、代表取締役または社長を務める男女600人

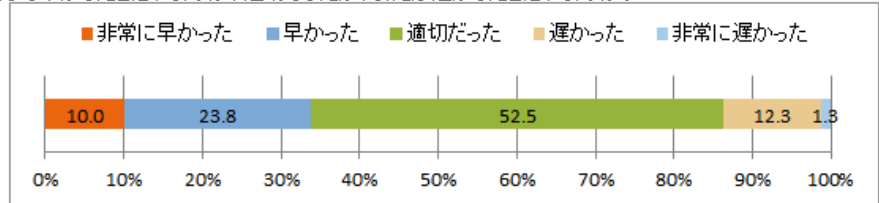
## <本調査の結果>

Q1～Q10 はシングルアンサー、Q11 はマルチアンサー

- ◆ Q1: 事業承継を受けたタイミングについて 52.5%は「適切だった」と回答。「遅かった」または「非常に遅かった」と回答した後継者は 13.6%。

Q1. 事業承継したタイミングは自身の年齢に照らして早かったと思いますか、適切でしたか、または遅かったと思いますか。

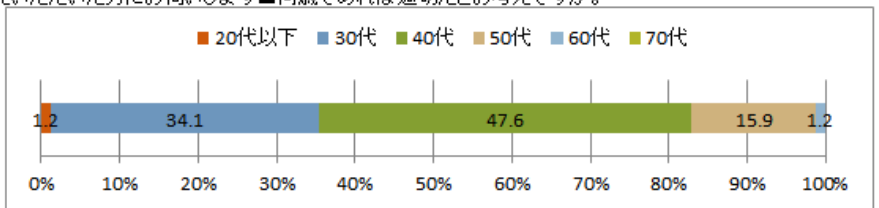
	n	%
全体	600	100.0
1 非常に早かった	60	10.0
2 早かった	143	23.8
3 適切だった	315	52.5
4 遅かった	74	12.3
5 非常に遅かった	8	1.3



- ◆ Q2: 事業承継を受けるタイミングが「遅かった」と回答した後継者の約 83%が、「40 代」以下（「40 代」「30 代」「20 代」の合計）での承継が適切なタイミングと回答。

Q2. ■前問で遅かった／非常に遅かったとお答えいただいた方にお伺いします ■何歳であれば適切だとお考えですか。

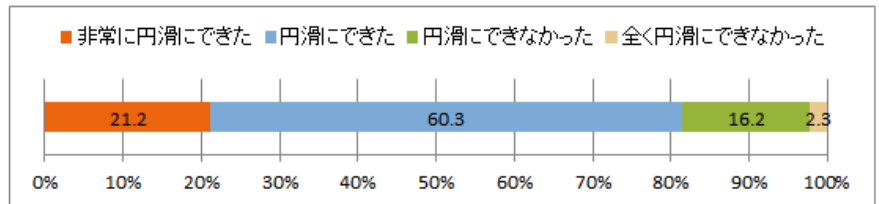
	n	%
全体	82	100.0
1 20代以下	1	1.2
2 30代	28	34.1
3 40代	39	47.6
4 50代	13	15.9
5 60代	1	1.2
6 70代	0	0.0



- ◆ Q3: 後継者の大多数 (8 割以上) が事業承継は「円滑にできた」と回答。

Q3. 事業承継は円滑にできましたか。

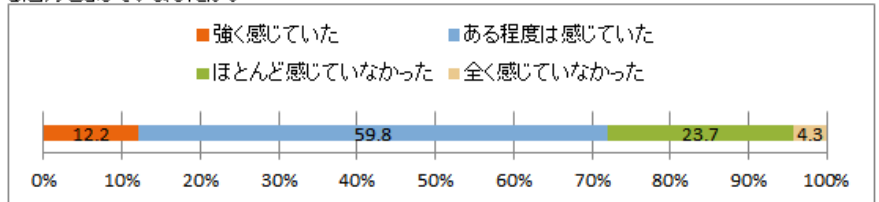
	n	%
全体	600	100.0
1 非常に円滑にできた	127	21.2
2 円滑にできた	362	60.3
3 円滑にできなかった	97	16.2
4 全く円滑にできなかった	14	2.3



- ◆ Q4: 事業承継が決まる以前、事業(家業)に対して魅力を感じていたのは 7 割超。

Q4. 事業承継が決まる以前、事業(家業)に対する魅力を感じていましたか。

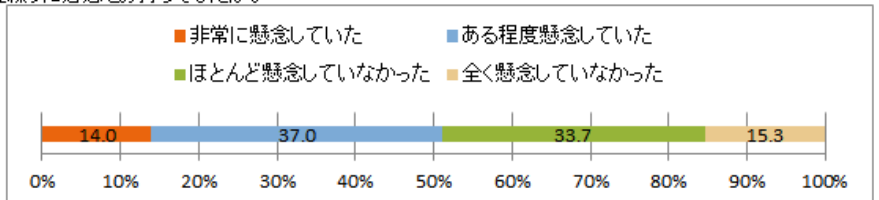
	n	%
全体	600	100.0
1 強く感じていた	73	12.2
2 ある程度は感じていた	359	59.8
3 ほとんど感じていなかった	142	23.7
4 全く感じていなかった	26	4.3



- ◆ Q5: 事業承継が決まる以前の資金繰り懸念の有無はそれぞれ約半数ずつ。

Q5. 事業承継が決まる以前、事業(家業)の資金繰りに懸念をお持ちでしたか。

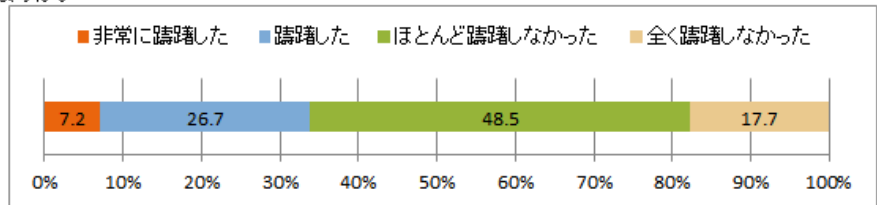
	n	%
全体	600	100.0
1 非常に懸念していた	84	14.0
2 ある程度懸念していた	222	37.0
3 ほとんど懸念していなかった	202	33.7
4 全く懸念していなかった	92	15.3



◆ Q6: 事業(家業)を継ぐことを躊躇した後継者は約 34%。

Q6. 事業(家業)を継ぐことに躊躇したことはありますか。

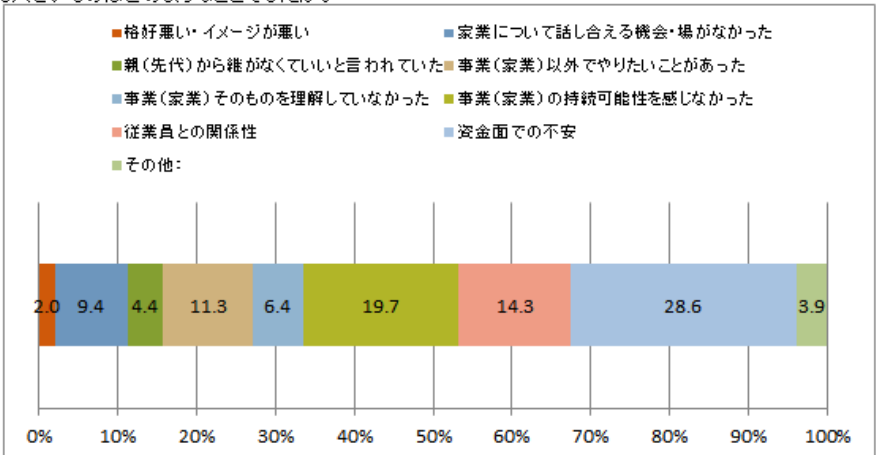
	n	%
全体	600	100.0
1 非常に躊躇した	43	7.2
2 躊躇した	160	26.7
3 ほとんど躊躇しなかった	291	48.5
4 全く躊躇しなかった	106	17.7



◆ Q7: 事業(家業)を継ぐことを躊躇させた主な要因は「資金面での不安」が 28.6%で最多。

Q7. 事業(家業)承継を躊躇させる要因として最も大きいものはどのようなことでしたか。

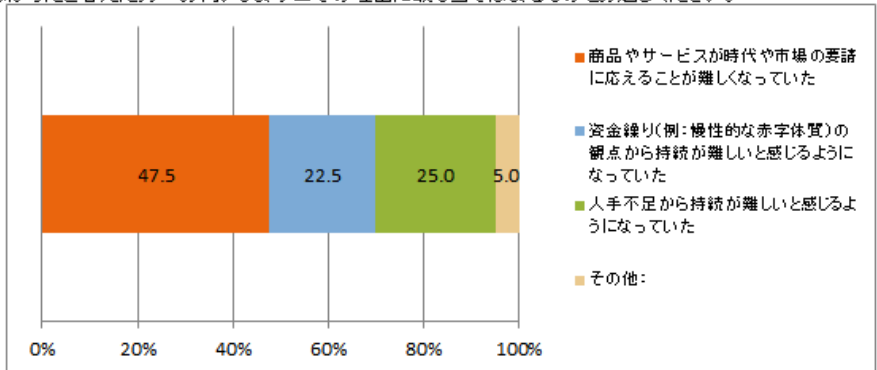
	n	%
全体	203	100.0
1 格好悪い・イメージが悪い	4	2.0
2 家業について話し合える機会・場がなかった	19	9.4
3 親(先代)から継がなくていいと言われていた	9	4.4
4 事業(家業)以外でやりたいことがあった	23	11.3
5 事業(家業)そのものを理解していなかった	13	6.4
6 事業(家業)の持続可能性を感じなかった	40	19.7
7 従業員との関係性	29	14.3
8 資金面での不安	58	28.6
9 その他:	8	3.9



◆ Q8: 承継に躊躇した後継者で、その要因を「事業(家業)の持続可能性を感じなかった」と回答した理由は「商品やサービスが時代や市場の要請に応えることが難しくなっていた」が最多(47.5%)。

Q8. 前問で事業(家業)の持続可能性を感じなかったと答えた方へお伺いします。その理由に最も当てはまるものをお選びください。

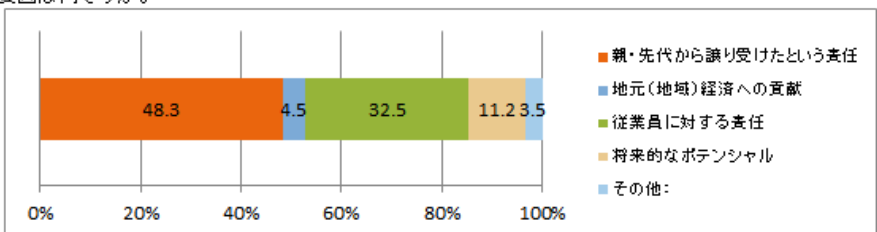
	n	%
全体	40	100.0
1 商品やサービスが時代や市場の要請に応えることが難しくなっていた	19	47.5
2 資金繰り(例:慢性的な赤字体質)の観点から持続が難しいと感じるようになっていた	9	22.5
3 人手不足から持続が難しいと感じるようになっていた	10	25.0
4 その他:	2	5.0



◆ Q9: 最終的に事業を継ぐ決め手となったのは関係者に対する責任感。「親・先代から譲り受けたという責任」が 48.3%、「従業員に対する責任」が 32.5%。

Q9. 最終的に事業(家業)を継ぐ決め手となった要因は何ですか。

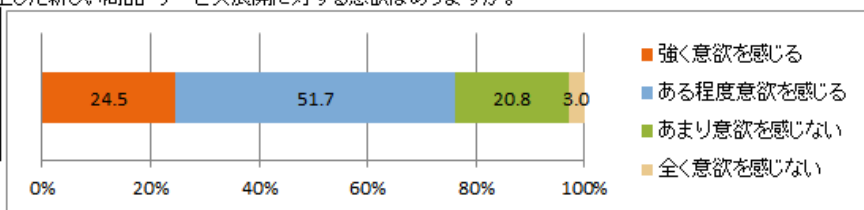
	n	%
全体	600	100.0
1 親・先代から譲り受けたという責任	290	48.3
2 地元(地域)経済への貢献	27	4.5
3 従業員に対する責任	195	32.5
4 将来的なポテンシャル	67	11.2
5 その他:	21	3.5



- ◆ Q10: 事業の中核となる製品やサービスから派生した新しい商品・サービス展開に対する意欲は、約 76%が「ある」(「強く意欲を感じる」と「ある程度意欲を感じる」の合計)と回答。

Q10.事業の中核となる製品やサービスから派生した新しい商品・サービス展開に対する意欲はありますか。

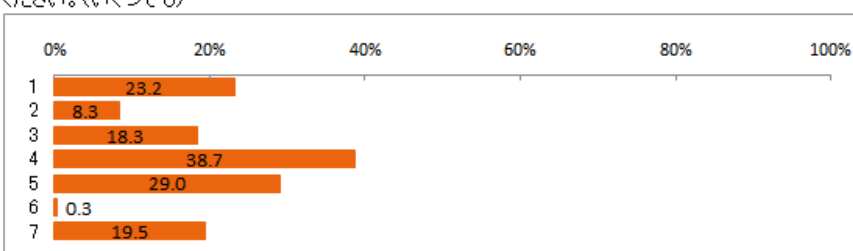
	n	%
全体	600	100.0
1 強く意欲を感じる	147	24.5
2 ある程度意欲を感じる	310	51.7
3 あまり意欲を感じない	125	20.8
4 全く意欲を感じない	18	3.0



- ◆ Q11: 今後挑戦・注力したい領域について、「従来からの事業(家業)に絞って続ける」が 38.7%で最多。一方、「新業態への挑戦」が 29.0%と二番目に大きい割合を占めた。

Q11. 今後挑戦・注力したい領域について教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	600	100.0
1 国内他地域への進出	139	23.2
2 海外市場への進出	50	8.3
3 ITの活用	110	18.3
4 従来からの事業(家業)に絞って続ける	232	38.7
5 新業態への転換	174	29.0
6 その他:	2	0.3
7 特になし	117	19.5



以上

[本件に関する問い合わせ先]

エヌエヌ生命保険株式会社 広報部

TEL:03-5210-5599 FAX:03-6685-7700 Email: ML-IL-JP-CCA@nnlife.co.jp

エヌエヌ生命は、オランダにルーツを持ち、170年におよぶ伝統を誇る NN グループの一員です。NN グループは、欧州および日本を主な拠点とし、18カ国にわたり、保険および資産運用事業を展開しています。その名は、源流である「ナショナル・ネーデルランデン」に由来しています。エヌエヌ生命は、1986年に日本で初めてのヨーロッパ生まれの生命保険会社として営業を開始して以来、30年以上にわたり、中小企業とその経営者が財務や財産の面で安定した将来を確保できるよう支援しております。